

令和7年度  
岩内あけぼの学園

# 事業報告書

社会福祉法人あけぼの福祉会

# 目 次

I. 利用者の状況	P3
1. 入退所状況	P3
①岩内あけぼの学園(施設入所支援)	P3
②岩内あけぼの学園(通所・生活介護)	P3
2. 居室と担当職員の状況	P4
II. 職員の状況	P5
III. 見学・実習生の受入状況	P5
IV. 研修の状況	P6
1. 職場外研修の状況	P6～P7
2. 職場内研修の状況	P8
V. 年間行事の実施状況	P8
VI. 生活支援の状況	P9
1. 社会生活活動の実施状況	P9
2. 避難訓練の実施状況	P9
3. 建物や設備の整備について	P9
4. 通院や入院への対応について	P9～10
5. 感染症への対応について	P10
6. リハビリ支援について	P10
7. 行事の実施について	P10
8. BCP 計画(業務継続計画)について	P10
9. 学校との連携と将来的な人材確保について	P11
10. 広域避難訓練の実施について	P11
11. 地域移行に向けた取り組み、グループホームとの連携について	P11
12. 在宅(通所)利用者の支援について	P11
13. 記録管理システムについて	P11
14. 障がい者虐待防止・身体拘束防止について	P11
15. 利用料収入と支援スタッフの確保について	P12
VII. 食事提供業務の状況	P12
VIII. 健康管理の実施状況	P12
1. 日常生活における予防及び衛生	P12
2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防	P12
3. 日常の健康管理	P13
4. 往診状況について	P13
5. 健康診断の実施と各種検診の受診	P13
IX. 苦情解決について	P13
X. 日中活動支援の状況	P14
1. 活動グループの状況	P14
2. 各活動グループの活動状況	P15
① 生活介護Ⅰグループ	P15
② 生活介護Ⅱグループ	P15～16
③ 生活介護Ⅲグループ	P16

# I. 利用者の状況について

## 1. 入退所状況

### ①. 岩内あけぼの学園、施設入所支援利用者動向

月	現員	施設入所支援状況		異動の状況
		入所	退所	
4	40			
5	40			
6	40			
7	40			
8	40			
9	40			
10	40			
11	40			
12	41	1		女性1名(GHからサービス切り替えに伴う入所)
1	41			
2	42	1		女性1名(GHからサービス切り替えに伴う入所)
3	43	1		女性1名(入所)
合計	487	3	0	

### ②. 岩内あけぼの学園、(通所)生活介護利用者動向

月	現員	通所利用状況		異動の状況
		通所	退所	
4	17			
5	17			
6	17			
7	17			
8	17			
9	17			
10	17			
11	17			
12	16		1	女性1名(施設入所支援サービスへ切り替え)
1	16		1	男性1名(逝去に伴う退所)
2	15			
3	15			
合計	198			

2. 居室と担当職員の状況(令和8年3月31日現在)

① 施設入所支援サービス利用者

利用者名 (男性)	担当職員		利用者名 (女性)	担当職員	
	担当	副担当		担 当	副担当
K・Hさん	T・D	S・M	I・Hさん	N・K	K・S
M・Sさん	T・D	O・S	W・Aさん	N・K	U・A
T・Yさん	S・R	T・Y	K・Sさん	S・A	S・H
N・Rさん	S・R	M・T	S・Mさん	S・A	N・K
A・Sさん	M・T	T・Y	H・Eさん	T・M	U・Y
T・Kさん	M・T	K・M	Y・Hさん	T・M	N・K
I・Hさん	A・Y	K・M	I・Rさん	U・Y	T・M
Y・Tさん	S・Y	A・Y	I・Mさん	U・Y	H・M
I・Gさん	S・N	M・T	S・Yさん	U・Y	S・H
T・Tさん	S・N	H・S	K・Aさん	F・I	N・K
K・Yさん	S・M	T・D	N・Hさん	F・I	N・N
T・Mさん	S・M	T・Y	O・Rさん	S・H	U・Y
S・Kさん	K・M	S・N	H・Hさん	S・H	N・K
Y・Mさん	K・M	S・R	T・Kさん	N・N	H・H
S・Kさん	T・Y	H・S	K・Kさん	M・S	S・A
O・Sさん	T・Y	T・D	S・Sさん	U・A	K・M
M・Mさん	T・Y	S・R	N・Kさん	K・S	K・M
K・Kさん	T・Y	T・D	M・Tさん	H・M	F・I
T・Tさん	A・Y	H・S	W・Hさん	K・M	T・M
T・Kさん	O・S	M・T	A・Tさん	K・S	U・Y
W・Tさん	T・Y	H・S	T・Y	T・A	T・M
			H・R	T・M	K・M

②通所部 (在宅日中活動サービス利用)

利用者名	担当窓口	副担当	利用者名	担当窓口	副担当
K・Kさん	S・R	A・Y	N・Yさん	T・M	K・S
S・Kさん	O・S	M・T	E・Hさん	N・K	K・M
K・Tさん	S・N	T・D	K・Yさん	K・M	U・Y
H・Yさん	K・M	S・M	K・Kさん	S・A	K・M
M・Hさん	T・D	S・N	N・Kさん	K・M	F・I
I・Kさん	T・Y	O・S	A・Tさん	K・M	S・A
U・Kさん	A・Y	T・Y	D・Hさん	K・M	S・A
M・Mさん	M・T	T・Y			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

<利用区分>

	施設入所支援	合 計	備 考
施設入所支援利用者	男性 21 名 女性 22 名	43 名(40 名)	カッコ内は定員
在宅（通所）利用者	男性 8 名 女性 7 名	17 名	

Ⅱ. 職員の状況について

月	職員動向		異動の状況
	採用	退職	
4	2	1	A・Y(採用)、M・S(採用)、E・T(退職)
5			
6			
7	1		S・M(採用)
8	1		S・Y(採用)
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			
合計	4	1	

Ⅲ. 見学・実習生の受入状況

月	日	見学・実習生名
6	23～27	北翔大学3年生(教員免許取得の為の介護体験実習)1名
	30～7/4	北海道余市養護学校高等部3年生(現場実習)1名
	30～7/7	北海道教育大学旭川校3年生(教員免許取得の為の介護体験実習)1名
7	22～8/4	札幌まいく専門学校3年生(施設実習)3名
8	25～29	札幌大谷大学(教員免許取得の為の介護体験実習)1名
10	27～31	北翔大学3年生(教員免許取得の為の介護体験実習)1名
11	4～14	北海道余市養護学校高等部3年生(卒業後の利用に向けた現場実習)1名
	19	北海道夕張高等養護学校2年生(見学) 本人と保護者2名
	24～28	北翔大学3年生(教員免許取得の為の介護体験実習)1名
2	26～27	北海道余市養護学校高等部3年生 (卒業後の利用に向けた生活介護体験実習)1名

## IV. 研修の状況

### 1. 職場外研修の実施状況

月	日	研修名	開催地	派遣職員
4	17	令和7年度後志知的障がい福祉協会総会	小樽市	O・H、M・T
	21	令和7年度全道オンブズマン研修会	札幌市	M・T
5	9	第1回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	小樽市	M・T
	12	第1回支援研究員会	札幌市	M・T
	13	どさんこ楽フェス 2025(スタッフとして参加)	札幌市	M・T
	24~27	施設見学	沖縄県	O・H、K・M T・M、F・I
6	2	第1回支援研究委員会三役会議	小樽市	M・T
	3	令和7年度岩宇地区自立支援協議会全体会	岩内町	O・H
	3~4	全国介護事業者連盟第1回北海道東北ブロック大会	札幌市	O・H、I・M
	3~5	令和7年度社会福祉主事資格認定通信課程集合研修	神奈川県	S・N
	5	令和7年度安全運転管理者講習	岩内町	M・T
	5~6	令和7年度全道施設長セミナー	札幌市	O・H、H・Y
	6	第2回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	余市町	M・T
	9~10	令和7年度第1回第2回オンブズマン訪問	寿都町	M・T
	9~11	令和7年度社会福祉主事資格認定通信課程集合研修	神奈川県	T・Y
	16	令和7年度第1回危機管理対策委員会	札幌市	O・H
27	第2回支援研究委員会全体会議	余市町	M・T	
7	10~11	令和7年度全国知的障害関係施設長等会議	東京都	O・H
	11~12	令和7年度第15回国内研修事業清水基金	東京都	T・D
	15~16	相談支援従事者研修	オンライン	Z・K
	18	第3回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	仁木町	M・T
	30	北海道栄養士会後志支部すこやか北海道 21	岩内町	K・Y
31	施設見学①グループ (医療法人晴生会 介護老人保健施設グラーネ北の沢)	札幌市	I・M、M・T U・Y、K・Y T・Y、S・M K・M	
8	5~7	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	オンライン	O・S
	7	令和7年度権利擁護セミナー	札幌市	S・A
	7~8	令和7年度障がい者虐待防止・権利擁護研修	札幌市	S・R
	8	施設見学②グループ (社会福祉法人 光の森学園 生活介護事業所 四季彩の邑)	札幌市	H・Y、F・I S・A、K・M E・M、O・H M・A
	19	令和7年度自閉症研究委員会(基礎研修)	仁木町	S・A、S・N S・M、K・M S・H
	19~21	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	オンライン	M・S
	26	第4回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	オンライン	M・T
9	2	自閉症研究委員会実践報告会	仁木町	T・A、T・D S・A、S・N
	3	施設見学③グループ (社会福祉法人北海道リハビリー 障害者支援施設 美しの森)	札幌市	H・Y、S・R T・Y、K・M H・M、H・O Y・S

	7	全道フライングディスク大会講師派遣	札幌市	A・Y
	10	令和7年度第2回危機管理対策委員会	オンライン	O・H
	10	施設見学⑤グループ (社会福祉法人はるにれの里自閉症自立支援センターゆい他)	札幌市	H・Y、N・K T・Y、S・M S・H、K・S H・J
	12	知的障害者の居住支援のあり方を考える研修会	札幌市	I・M
	19	第5回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	仁木町	M・T
	20	全道フライングディスク大会講師派遣	札幌市	A・Y
	24	令和7年度防災業務関係者研修(社会福祉施設等関係者向け)	倶知安町	I・M
	24	施設見学④グループ (社会福祉法人北海道リハビリー 障害者支援施設 美しの森)	小樽市	H・S、N・N O・K、U・A A・S、T・A
	25	令和7年度防災業務関係者研修(放射線防護施設担当者向け)	古平町	T・Y
10	7~9	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	オンライン	U・A
	14	施設見学⑥グループ (北海道星置養護学校)	札幌市	M・K、T・D S・N、K・S K・M、 H・H、M・M
	15~16	新人職員研修会	上川町	I・M(講師) O・S
	24	第6回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	小樽市	M・T
	28	第3回支援研三役会議	寿都町	M・T
	30	タイムリーニーズ勉強会	北広島市	M・T
	31	令和7年度災害対策研修会	札幌市	O・H、I・M S・N、A・Y
11	1	口腔健康管理セミナー	岩内町	S・M
	6~9	施設見学	愛知県	I・M、H・H
	9	フライングディスク大会講師派遣	札幌市	A・Y
	10~11	令和7年度全道知的障がい関係職員研修	旭川市	H・S、T・A
	18	自閉症研究会	喜茂別町	T・A、T・D S・A、S・N
	18	年末調整講習会	オンライン	Y・S
	28	令和7年度岩内保健所感染対策研修会	岩内町	S・M
12	4	第4回支援研三役会議	仁木町	M・T
	9	第8回支援研究委員会職員研修・権利擁護事業部会会議	オンライン	M・T
	9	令和7年度岩内保健所管内特定給食施設等栄養士情報交換会	岩内町	K・Y
	12	令和7年度後志知的障害福祉協会権利擁護研修	オンライン	S・H、S・Y
	17~18	第13回障がい者支援施設部会全国大会東海地区愛知大会	愛知県	H・Y、K・Y
1	24	清水基金「海外研修40周年記念講演会」	東京都	O・H、T・D
2	9	令和7年度障がい者虐待防止マネージャー研修会	オンライン	H・Y
	13	2025年度北海道サービス管理責任者基礎研修	札幌市	T・D
	13	令和7年度虐待防止研修会	北広島市	M・T
	19	ハラスメント対策実践研修	オンライン	H・S
	26~27	令和7年度全道施設長研修会	札幌市	O・H
	28	2025年度医療的ケア教員講習会	札幌市	S・M
3	2~4	令和7年度社会福祉主事資格認定通信課程集合研修	神奈川県	S・M
	2	第4回支援研究委員会三役会議	仁木町	M・T
	5~6	後志知的障害福祉協会 R7年度事業報告・R8年度事業計画会議	小樽市	M・T
	7	令和7年度北海道相談支援従事者研修	オンライン	T・D

## 2. 職場内研修の実施状況

月 日	テーマ	講師	参加人員
6/30	救命救急講習	岩内消防署	20名
7/30	防犯研修	岩内警察署	16名
9/26	感染症対策講座 吐物処理について	看護師	13名
10/15	感染症対策講座 吐物処理について	看護師	8名
11/21	侑愛会における虐待防止について	社会福祉法人侑愛会副施設長 東隆史氏	27名
12/16	窒息時の対応、高齢者支援研修	看護師、作業療法士	19名
1/28	救命救急講習	岩内消防署	14名
1/29	窒息時の対応	看護師	14名
2/24	緊急救命講習(緊急時のフローチャート活用)	看護師	16名
2/25	業務継続計画(BCP)訓練(自然災害・感染症)	管理職	12名
3/24	権利擁護伝達研修	S・R係長	29名
			合計 188名

## V. 年間行事の実施状況

月	日	行事名	月	日	行事名
4	1	開園記念行事(ランチ会)	10	30	ハロウィン・ランチ会
5	6 22 29 30	映画観賞会 日帰り旅行(小樽市) 日帰り旅行(小樽市、余市町) 日帰り旅行(小樽市、余市町)	11	11 28 29	焼いも会 ランチ会 よしもとお笑いライブ(岩内町)
6	12 13 19 26	日帰り旅行(余市町) 日帰り旅行(小樽市、余市町) 日帰り旅行(余市町) バーベキュー	12	23	クリスマス会
7	4 7~9 24	鳥羽一郎コンサート(岩内町) 岩内祭り ランチ会	1	21	新年会・ランチ会
8	20 29	ランチ会 縁日祭	2	13	バレンタイン・ランチ会
9	17	バーベキュー	3	3	ひな祭り・ランチ会

## VI. 生活支援の実施状況

### 1. 社会生活活動について

- ・月に1回の頻度で昼食を伴う買い物を実施した他、身体機能の低下が著しい利用者の方については職員が買い物を代行した。移動が困難で外食が難しい方については、食事を店舗からテイクアウトし、学園内で食事を楽しんでいただいた。
- ・12月から3月の冬期間については、月1回の頻度で町内のコンビニエンスストア(ローソン)の出張販売を依頼した。多目的ホールで買い物が出来るように商品を設置し、利用者の方が直接商品を選びながら、買い物を楽しんだ。
- ・利用者の方が活動に参加した際、記録管理システム(ケアカルテ)へ確実に記録する事で個別の参加状況を細かく把握できる様に取り組んだ。

### 2. 避難訓練の実施状況

月 日	訓練の種類	訓練の内容	利用者参加人数	年間実施回数
7/4	自主訓練	夜間避難訓練	37名	6回
9/23	自主訓練	地震を想定した訓練	37名	
10/29	原子力防災訓練	原子力災害を想定した 広域避難訓練	職員対象	
12/26	自主訓練	地震を想定した訓練	46名	
1/26	自主訓練	火災を想定した避難訓練	40名	
3/10	自主訓練	地震・土砂災害を想定した避難訓練	47名	

### 3. 建物や設備の整備について

- ・男女各棟共用空間(天井)にエアコンをそれぞれ1台ずつ設置している。
- ・障害福祉サービス事業所等における環境改善支援事業(北海道)から助成を受け、スポットクーラーを13台購入している。
- ・大友福祉振興財団から助成を受け、電動アシスト付き車椅子を2台購入している。
- ・温度調整が機能しない為、食事用温冷車を1台更新している。

### 4. 通院や入院への対応について

今年度は男性2名女性4名の方が身体的な機能低下や医療的治療が必要で入院となった。

※60代女性1名(透析治療中)は5月下旬、居室内で転倒し右大腿骨頸部骨折と診断され、小樽市立病院で手術(人工股関節置き換え術)を行った。リハビリの為、済生会小樽病院に転院したが、リハビリや透析治療の拒否があり、7月中旬退院した。

退院後、せん妄や昼夜逆転の状態が続いた為、小樽市立病院精神科に入院する。退院後の学園生活が難しいと考えられること、小樽市立病院での長期入院が難しいことから転院先や他事業所の利用を検討している。

※50代女性1名は6月下旬、深夜の覚醒、暴言があり、日中眠気が強いことから食事が摂れない状態が続いた為、いしばし病院に入院し服薬調整を行い、9月上旬に退院した。

退院し数日後から食事を強く拒否するようになり、9月下旬に再入院している。服薬調整後、11月中旬に退院した。

\*50代男性1名は7月上旬、左側側脳室が拡大しておりシャントが機能していないと診断を受け、小樽市立病院に入院する。シャントの入れ替え手術を行い、7月中旬に退院した。

11月上旬、腹膜炎の為、岩内協会病院に入院し抗生剤による治療を行い11月下旬に退院した。

3月上旬、腹痛の訴えがあり小樽市立病院を受診、検査の為そのまま入院となった。検査の結果シャントの処置が必要となり、3月下旬シャントの抜去手術を行い退院した。

\*50代女性1名は9月中旬、1ヶ月以上の入浴拒否や無気力な状態が続いた為、精神科主治医に相談。服薬調整の為、いしばし病院へ入院し10月中旬に退院した。退院後は定期的に入浴することが出来ている。

\*60代男性1名は11月下旬、小腸イレウスの為、岩内協会病院に入院し抗生剤による治療を行い12月上旬に退院した。

\*80代女性1名は3月中旬から風邪症状があり受診していたが発熱が続いた為、3月下旬再受診し肺炎の診断を受け岩内協会病院に入院した。

今後も通院や入院に至るケースについて、学園とご家族で連携を図りながら慎重に進めていく。

## 5. 感染症への対応について

検温回数は1日1回とし毎日の体調管理は継続しながら、熱発等の症状がある場合は、状況に応じて抗原検査キットの使用や通院を行っている。11月に新型コロナウイルスとインフルエンザの同時接種を行っている。

あけぼの学園では、感染症の発生を踏まえ、衛生用品の確保、マニュアル等の整備、職員による防護服着用や吐物処理の実践研修を実施し、感染拡大防止に対応できる体制づくりを行った。

職員自身の健康管理も継続している。更に職員本人や同居家族が罹患した場合や有症状時の対応策を職員全体で共有し、感染予防に努めた。今後も感染症対策に努めた支援を行う。

## 6. リハビリ支援について

医師の指示の下、リハビリが必要であると診断を受けた利用者の方を対象に、作業療法士が中心となりリハビリを実践している。

医師の指示の下、個々に合わせたプログラムを作業療法士が組み立て、支援ワーカーや看護師が連携して機能訓練を行った。今後も利用者個々の身体機能や生活状況を把握しながら専門的な支援を行う。

## 7. 行事の実施について

今年度はウイングベイ小樽や余市イオンでのショッピングに分かれ日帰り旅行を実施し、その他、昨年同様に利用者の方が園内で楽しめる行事として、縁日祭を行った。

身体機能の低下もあり外出が難しくなっているが、今後も学園内で楽しむことの出来る行事を職員が企画し、利用者の皆さんに参加していただく。

## 8. BCP 計画(業務継続計画)について

地震等の自然災害や感染症のクラスターが発生した場合も、利用者の方に対して必要なサービスを継続的に提供できるようBCP計画を策定している。また、職員に計画内容を周知し、有事を想定した訓練を2月に実施している。

## 9. 学校との連携と将来的な人材確保について

札幌ほいく専門学校3年生の実習生3名の受け入れを行っている。

今年度は6月下旬に3ヶ所の専門学校や大学を回り、各学校の就職担当者へ採用に関わる情報提供を行うと共に、7月中旬には後志知的障がい福祉協会「合同就職説明会」に参加し、星槎道都大学で就職説明会を実施している。

今後も積極的に実習生を受け入れながら、地域との交流やPR活動を行い、将来的な人材確保に努めていく。

小学校との連携については、9月に岩内西小学校、10月に岩内東小学校を訪問し「岩内あけぼの学園と障がいについて」の出張授業を行った。また、10月上旬には岩内西小学校4年生が来園し、施設内を見学し利用者の方と一緒にスロットボールを行って交流を深めた。

次年度、岩内東小学校と岩内西小学校が岩内中央学園に統合後も学校との連携を図り、生徒さんとの交流を図っていく。

## 10. 広域避難訓練の実施について

原子力災害における原子力防災訓練を10月29日に実施した。今回は通信訓練と倶知安町への避難訓練(利用者2名、学園職員2名)を行った。次年度も引き続き訓練を行い、有事の際に備えることとする。

## 11. 地域移行に向けた取り組み(地域移行確認)、グループホームとの連携について

昨年4月、学園に隣接するえみしあ棟が GH 事業に切り替わった以降、利用者の方にとって GH が身近な存在になっており、地域移行の確認を行いながら、個別支援計画に反映した。

生活拠点であるグループホームと情報を共有し出来る限りのバックアップを行った。今後もグループホームと連携を図りながら、利用者の方が落ち着いて生活することができるよう支援する。

また、利用者の方と地域との関係作りや地域に住む方に対して施設や利用者の方に関する理解を目的とした地域推進連携会議を10月に開催した。構成員として利用者の家族、地域に住む方、福祉に知見のある方などが来園し、施設内の見学や学園の事業報告などを行った。

## 12. 在宅(通所)利用者の支援について

地域支援センター(ぼのっと)を通所利用者の生活介護サービス提供場所としており、散歩やレクリエーション活動を提供した他、おやつ作り等を行った。

10月下旬から、2月中旬まで地域支援センターの耐震化工事の為、学園敷地内にある創作活動棟に活動場所を変更していた。

また、学園内で過ごされている通所利用者についても、同様の活動内容を提供し、個別で排泄介助や食事介助を行った。

## 13. 記録管理システムについて

記録管理システムを活用し、利用者の方の日常の生活状況をきめ細かく把握し記録することを徹底し、そのデータを健康管理や個別ケース等の支援に活用した。

また、蓄積されたデータを活用しモニタリングやアセスメント(評価)を行い、利用者の方の個別支援計画(ケアプラン)を策定した。

## 14. 障がい者虐待防止・身体拘束防止について

障害者虐待防止法を順守し、施設内における虐待防止委員会・身体拘束適正委員会を毎月開催した。また、虐待防止に関わる施設内研修、オンライン研修への参加を行った。更に、職員は支援項目を確認するチェックシートの実施や権利擁護研修への参加、利用者の方については利用者自治会(はばたけ会)を通して虐待についての説明を行った。

## 15. 利用料収入と支援スタッフの確保について

国や利用者から支払われる一般的な支援費のほか、重度障がい者支援加算や人員配置体制加算、夜勤職員配置体制加算などを活用し、施設の収入財源を確保したうえで、国が定める一定の配置基準以上(今年度実績は利用者1.5名に対して支援スタッフ1名以上)の支援スタッフにより、利用者に対する日々の支援サービスを提供することが出来た。

夜間はあけぼの学園に職員3名を配置し、夜間専門職員と日中支援職員とで協力して支援にあたった。職員の採用について、有料広告会社や人材派遣会社等を通して、職員2名を採用した。

## VII. 食事提供業務の状況

### 1. 選択食、希望食の実施

複数の料理からその場で好きな方を選択する献立、メニューブックを参考にして自分の食べたい料理を自由にリクエストし、それを献立に反映させた。更に、毎月実施するはばたけ会(利用者自治会)の中で利用者の方からの要望を聞き、行事食等に反映させた。また、通所利用者の方を対象におやつ作りを行い、喫食を楽しんだ。

### 2. 行事食、野外での食事会の実施

感染症対策を行いながら、毎月のランチ会、開園記念日、クリスマス会、新年会などの行事食のほか、野外での食事会(炭火でのバーベキュー)を行った。

### 3. 特別食、エネルギー制限食の提供

腎臓疾患、糖尿病の利用者の方への特別食の提供、咀嚼、嚥下機能が困難である利用者の方への数種類に分けた刻み食の提供など、利用者の方の健康状態、嚥下機能に合わせた食事の提供を行った。

また、個人の年齢、体型、運動量、代謝量などを考え、通常の1,800kcalの食事のほか、若年層男女の2,000kcal、さらに1,600kcal、1,460kcal、1,200kcalの食事提供区分を設定し、利用者の方の健康に配慮した。

## VIII. 健康管理の実施状況

### 1. 日常生活における予防及び衛生

①生活習慣、感染症対策として、うがい、手洗い及び手指消毒、外出時はマスク着用を行った。

また、感染症対策から洗面所や出入り口にはアルコール消毒液を常設し、手洗い後はペーパータオルやエアージェットを使用し、手指の清潔を保った。

②入浴時は全身の怪我や皮膚の状態を観察し、異常があれば看護師へ報告し迅速に対応するよう努めた。

### 2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防

①感染症予防対策として、トイレや全館の消毒を実施した。

②アルコール消毒液を各棟、玄関に設置し手指消毒に努めた。

③正面玄関に検温器を設置した。

### 3. 日常の健康管理

- ①検温を1日1回毎朝測定している。異常のあるときは通院を行い、軽易の症状であれば常備薬で対応した。発熱等の症状があった際は、対応マニュアルに沿って迅速に対応することとし、病院へ受診、各種検査を実施した。  
また、状況については、看護記録に記載するとともに記録システム(ケアカルテ)に詳細な記録をとった。
- ②全利用者さんを対象に月2回体重測定を行った。また、体重の推移を細かくチェックする必要がある利用者の方については、毎週体重測定を行った。
- ③高齢の方や高血圧、呼吸器疾患、循環器症状のある方については、毎日血圧測定と血中酸素飽和濃度を測定し、その他の方に対しては、月2回血圧測定を実施した。数値が安定しない利用者の方に対しては通院を行い、状況や様子については健康管理委員会や各ケース会議で協議した。また、肥満防止、機能維持のために、食事量の検討、散歩、リハビリや体操などを行った。
- ④嚥下困難な利用者の方に対して「嚥下体操」を継続して行った。更に嚥下機能の低下が顕著となった利用者の方については、看護師、栄養士、作業療法士、支援ワーカーが観察、評価を行うことで、食事形態や支援内容の見直しを図り、医療機関への受診も行った。
- ⑤男女各棟を巡回し、利用者の方の健康状態をチェックした。
- ⑥新型コロナウイルス、インフルエンザの予防接種を行った。
- ⑦新型コロナウイルスの継続的な感染症対策として、支援ワーカーへ感染症対策における防護服着用の実演を新規採用職員に対して行った。  
感染状況によっては、職員や利用者にご注意喚起を促すと共に衛生用品や抗原検査キット等の備蓄管理を行った。

### 4. 往診状況について

岩内協会病院外科(内科的な診察も含む)の医師による往診を男女各1回ずつ行った。往診に合わせ事前の採血も実施し、採血結果に基づいて診察を受けている。また、同病院の外科(皮膚疾患の診察)についても月1回の頻度で往診していただいた。

### 5. 健康診断の実施と各種検診の受診

- ①施設で実施する年2回の健康診断は実施しており、身元引受人の了解を頂き、血液検査による癌検診(血液マーカー検査)、便採取による大腸がん検診を実施した。
- ②町内の歯科医院で治療が可能な利用者の方については町内で治療を行っており、行動特性上、町内の歯科医院での治療が難しい方については、北大病院の歯科を受診している。

## IX. 苦情解決について

苦情解決第三者委員会を年2回(7月24日、12月23日)に実施している。身元引受人からの意見・要望7件であった。12月はクリスマス会の前に法人苦情解決委員会を開催し、苦情、意見、要望について報告させて頂き、クリスマス会にもご参加頂いた。

また、毎月行う利用者自治会の会議等の中で、利用者の方からの要望が何点か聞かれたが、軽微な要望であった為、これについてはその都度解決した。

## X. 日中活動支援の状況

日中活動区分	生活介護(入所)	生活介護(通所)	生活介護(合計)
人数	42名	15名	57名

### 1. 日中活動グループの状況について(令和8年3月31日現在) ※○印は活動グループ運営責任者

活動グループ名		令和7年度日中活動編成			在籍数	運営責任者
		利用者名				
生活介護	生活介護 I	T・Kさん	K・Yさん	H・Eさん	35名	○N・K S・R (T・A課長補佐)
		T・Kさん	K・Kさん	N・Kさん		
		S・Kさん	N・Rさん	S・Sさん		
		T・Tさん	Y・Mさん	Y・Hさん		
		K・Hさん	K・Kさん	I・Rさん		
		S・Kさん	T・Kさん	K・Sさん		
		M・Sさん	S・Yさん	W・Hさん		
		Y・Tさん	N・Hさん	I・Hさん		
		M・Mさん	M・Tさん	D・Hさん		
		W・Tさん	I・Mさん	N・Yさん		
		T・Mさん	W・Aさん	T・Yさん		
	T・Yさん	O・Rさん				
	生活介護 II (個別支援)	T・Tさん	I・Gさん	K・Aさん	9名	○S・A S・N
I・Hさん		O・Sさん	H・Hさん			
A・Sさん		K・Kさん	S・Mさん			
生活介護 III (ぼのっと)	I・Kさん	K・Tさん	N・Kさん	13名	○T・Y S・M K・M (H・S課長補佐)	
	U・Kさん	H・Yさん	K・Kさん			
	M・Mさん	M・Hさん	A・Tさん			
	S・Kさん	A・Tさん				
	K・Yさん	E・Hさん				

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

## 2. 各グループの活動状況について

### 生活介護Ⅰグループ

#### ○目標（重点目標）

1人ひとりが楽しみをもって参加出来るような活動内容を設定し、その方の意思決定を尊重しつつ必要な機能維持やストレスの軽減を図り、落ち着いた生活を送る事が出来るよう支援する。

#### ○どの様な取り組みを行うか

- ①心身の機能に併せた好む活動（個別課題、軽運動、機能維持に向けたリハビリテーション等）を提供する。
- ②活動中は利用者の方の心身の健康状態などに留意した上で、活動内容を提供する。
- ③冬期間は園内歩行を中心に取り入れ、身体機能を維持しながら気分転換に繋げる。
- ④身体的、精神的特性により、1人での入浴が困難な方に対して活動内で入浴支援を行う。また、ゆとりを持った入浴ができるように支援する。
- ⑤利用者の方が好む活動（創作活動、レクリエーション、カラオケ等）を提供し、楽しく活動へ参加できるように支援する。

#### ○取り組みに対する評価

- ①リハビリについては火曜日～金曜日までの午前中に実施した。また、個々に合わせた活動（軽運動や個別活動）を提供した。
- ②活動中は心身の健康状態に留意した上で活動を提供した。また、高齢の方や心疾患がある利用者の方は活動の前にバイタル測定を行った。
- ③個々に合わせた距離（周数）で園内歩行を行った。園内を歩きながら職員や男女利用者の方と会話を楽しみながら歩いており、気分転換に繋げた。
- ④1人での入浴が困難な方については入浴日を設けて入浴支援を行った。また、身体的に入浴が難しい方は浴室用車椅子を使用し、安全に入浴できた。入浴日を分けることでゆとりを持った入浴支援ができた。
- ⑤生活活動については冬期間、気候の関係で行っていない。創作活動全体で実施することが難しく、創作活動と箱折りについては全体の活動として組み込むことができなかった。生活介護Ⅰでは上記活動を組み込むことが難しく、箱折については参加できる利用者の方も限られてしまう為、今後は他の活動グループでの実施も検討する必要がある。  
レクリエーションやカラオケについては定期的の実施し、利用者の方も楽しみにしながら参加していた。次年度については利用者の方の意向に沿って生活介護Ⅲ（ぽのっと）での活動も提供できるように検討する。

### 生活介護Ⅱ（個別支援）

#### ○目標（重点目標）

TEACCHプログラムの理念を取り入れた支援を提供し、見通しの持てる活動を提供する。

#### ○どの様な取り組みを行うか

- ①定期的に自立課題を更新、見直しを行い継続的に取り組めるように支援する。また、活動や休憩スペースを状況に応じて調整する。
- ②生活場面と連携を図り、その都度固執の変化に合わせた支援のアプローチを行う。
- ③レクリエーションを実施することで気分転換を図り、活動に対する意欲向上に繋げる。
- ④他施設、関係機関との事例検討や研修会に参加し、支援に反映させる。

### ○取り組みに対する評価

- ①利用者の固執や取り組み方に応じて自立課題の修正、見直しを行い継続的に取り組む事ができていた。自立課題の更新については、定期的に行うことができなかった。
- ②一部の利用者に対し、職員や利用者への固執が見られた為、棟内の動線を男子棟利用者玄関に統一し対応した。
- ③1月にレクレーションを実施している。豚汁、オリジナル弁当を喫食し、気分転換を図った。
- ④自閉症勉強会として他施設合同の実践報告会に参加し、事例検討の報告や意見交換を行い、支援に反映させた。

### 生活介護Ⅲ(ぼのっと)

#### ○目標（重点目標）

個々のニーズに合わせ、健康維持やストレスの軽減を図るとともに、地域での生活に焦点を当てたレクや体験を通じて充実感や生きがいを持った生活を送ることができる活動を提供する。

#### ○どの様な取り組みを行うか

- ①個々のニーズに寄り添い毎日楽しく通所できるよう活動を提供する。
- ②個々の特性や希望に合わせた活動（創作、個別、生産）や余暇（動画鑑賞など）を提供する。また、1週間に1回程度のレクリエーションや調理、駄菓子の購入体験を行い、楽しめる活動を提供する。
- ③チアフルサンライズ利用者との合同レクリエーションを実施し、利用者の方や職員間の交流を深める。

#### ○取り組みに対する評価

- ①余暇時間では個人の意向の聞き取りを強化するため、余暇選択シート（絵・文字）を活動し都度選択し提供することで意欲的に参加できるよう配慮した。また、午後の活動時間にも選択シートを使用し、個人の意向や嗜好に沿った活動を提供することで活動に対するモチベーションに繋がられるように努めた。今後、月間予定表に通所利用者の誕生日を記載し、当日には何かしらの形でお祝いを行い利用者同士の交流や通所へのモチベーションに繋がられるように配慮したい。
- ②個々の希望や嗜好に合わせ余暇や活動を自身で選択する形式に変更した。個人の選択に委ねることで創作活動や映画鑑賞、個別課題など各々がその時取り組みたい活動を優先して行うことができるようになり、楽しく通所をできるように努めた。  
レク、調理実習については、レクに対する利用者のモチベーションが全体的に低く見受けられていたため、全体のモチベーションの高い調理実習を週1回行った。  
生産活動については銀行から依頼されたカレンダーの巻き取り作業を行っている。  
受託箱折作業については入所、通所利用者全体から参加者の希望を確認し、活動の中で随時行っていく。
- ③ぼのっとの耐震化工事に伴い、活動拠点を学園（多目的ホール、創作棟）に変更したため、チアフルサンライズ利用者との合同レクリエーションは行っていない。  
次年度は活動拠点がぼのっとに戻るため、チアフルサンライズと交流を深める活動を行っていきたい。